

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	代表者	田宮 崇	法人・ 事業所 の特徴	「自分や家族・友人が利用したいと思うサービスを提供」を法人理念とし、その人が築き上げてきた暮らしを支える個別支援を行います。 住み慣れた地域、自宅で最後まで安心した生活が送れるよう、「通い」「宿泊」「訪問」を組み合わせひとりひとりに合わせたサービス調整を行うほか、その時々希望・体調・生活状況などに考慮した、個別ニーズに合わせ地域の中で柔軟性のある日常生活の支援を提供します。
事業所名	小規模多機能型 居宅介護深沢	管理者	松田 悠一		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	2人	人	人	1人	人	3人	人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所自己評価の項目毎に担当を決め、毎月のミーティングで進捗状況を確認していく。今年度「できていない」の評価が多かったご利用者の理解に力を入れて取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所自己評価において、特にご利用者の地域での暮らし方、以前の暮らし方を踏まえた支援が足りなかった意見が多かった。アセスメントから日々のケアの中での情報収集に力を入れていく必要がある。</li> <li>事業所自己評価の各項目に対して、職員間での共有ができていない項目があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所自己評価の改善策をより具体的にして短い期間で評価できると良い。</li> <li>「臨む」「意識する」などの抽象的な表現はせず、成果が見える改善計画を立てるとよいと思う。</li> <li>自分たちの事業所としてどこがゴール地点なのかをしっかりと考えながらの評価が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ご利用者の以前の暮らしを聞き取れるアセスメントシートを作成する。</li> <li>②面談や日々の支援から地域との関係について聞いた情報を職員間で共有する。</li> <li>①暮らしの経過を記載できる、情報収集シート作成。 ※管理者および担当職員</li> <li>②職員（支援者）で、生活歴や望まれる生活を共有。 (日々支援から情報を上乗せ) ※全職員：毎月ミーティングにて再共有</li> </ul>

<p>B. 事業所の しつらえ・環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者に季節を感じる装飾や居心地の良い空間を聴きながら一緒にしつらえについて検討していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関においては下駄箱のシール跡の除去、靴置き場スリッパの整理を行った。</li> <li>・DSと協力し、使用していない下駄箱の撤去、事業所入口の装飾、飾りつけを季節ごとに行った。</li> <li>・ご利用者とともにお花を生けたり飾り作りを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・靴の置き場など前回の意見を活かして改善していて対応が早い。</li> <li>・ご利用者が自宅から花を持ってこられ、テーブルや入口を飾って下さる。自宅でできなくても事業所で花を育てているのを続けていただければと思う。</li> <li>・事業所の場所が利用する方でないと奥まわっていてわかりにくいことはあるが、誰でも入りやすくなっているのも防犯上危険な気がする。</li> <li>・しつらえだけ意識すると災害時に避難の妨げにならないようだけ気をつける必要がある。</li> </ul>	<p>①外部の方の意見を取り入れDSと協力しながら、玄関や事業所入口の環境整備を行っていく。</p> <p>②ご利用者の取り組みを活かし季節間ある環境を作る。</p> <p>①利用者、家族（関係者）、運営推進会議などから、心地良い環境作りについて意見を確認。 ※防犯、災害対策に留意</p> <p>②季節感を感じられるしつらえを、利用者の活動の一環とし共に考え実行する。</p>
<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・深沢ブロックやサポートセンターで行う地域への啓発活動と通じて地域との関係を築いていく。</li> <li>・コミュニティセンターや地域の行事に、ご利用者と一緒に参加を継続することで地域との関係を築いていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティセンターの行事や展示会にご利用者と参加する機会を頂いた。</li> <li>・地域の活動の中で出来る事をコミュニティセンターや町内会に発信し、介護教室等を開催することは出来なかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報誌を活用して困り事があった時に介護相談などが気軽にできるように職員や普段の活動、介護相談ができるなどの情報を地域に発信しても良いのではないかな。</li> <li>・他事業所では作品展や地域の方の作品を飾り、足を運んでもらう機会を作っている。</li> </ul>	<p>①事業所の活動状況、介護相談ができる場所として認知できる広報誌を作成。年2回広報誌を発行する。</p> <p>②コミセンのサークル活動の作品を事業所に展示できるよう広報誌で発信し、地域の方が事業所に足を運ぶ機会を作る。</p> <p>①事業所の役割、介護相談ができる場所として認知される広報誌の作成と回覧。 (地域へは回覧板、コミセン等への配布) ※まずは、上半期、下半期の計2回発行。</p> <p>②地域サークルの事業所内作品展。地域の方が事業所に足を運ぶきっかけを作る。</p>

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者の以前の生活を知ることによって地域の行きつけの店や馴染みの風景を見つけ出向く機会を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人暮らしのご利用者の近所の方は、訪問、送迎時に話す機会はあったが関係性の構築までは出来なかった。</li> <li>・地域への外出を計画し、ご利用者の馴染みのある場所や興味のあるような場所に出向くことは出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所に来たからといって絶対に外出しないといけないということではなく、ニーズにしっかり応えていくことが大切。</li> <li>・職員がかかわっていない時間の本人を知り、インフォーマルサービスを知ることが大切。</li> <li>・相談されないと関われないケースも多く、相談されやすい環境を作っていくところから始めればよいのではないか。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①アセスメントシートや日々の関りから以前の暮らしや馴染みの場所や友人関係を聞き取り、ケアプランに反映させる。</li> <li>②ご利用者個々の希望に合わせて地域との関りが持てるよう、外出行事の計画、実施。</li> </ol>
<p>E. 運営推進会議を活かした取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議に複数の職員が参加できるように調整していく。</li> <li>・事例検討を行うことで地域の方から意見をいただき、地域の困り事や意見を吸い上げる機会を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の取り組みや、事業所の支援事など、意見交換ができた。また、管理者や介護支援専門員以外の職員も参加することが出来た。頂いた意見等は事業所内で回覧し職員間で情報の共有を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故の報告等でも職員だけだと良い意見がでない場合もある。様々な事例があると思うので相談し検討できると良い。</li> <li>・職員が直接参加できなくても資料を見てもらい、確認してもらいたいことを事前に確認し会議で検討。「職員からの質問」を議事録に残す。資料と議事録を職員が見て職員が何を感じているかを確認した方が良い。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①会議前に職員に資料を配布。会議で意見やアドバイスをもらいたいことについて検討する。</li> <li>②運営推進会議の際にサービス評価総括表の取り組みについて報告し意見をもらい職員と共有。</li> </ol>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害発生時のフローチャートを作成し職員1人ひとりが行動できるように周知、訓練を行う。</li> <li>・地域の方に防災訓練の様子を運営推進会議時に見学いただく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の防災訓練に参加することは出来なかったが、運営推進会議で地域の防災の仕組み等を教えて頂き、職員間で共有することが出来た。</li> <li>・水消火器を使用しての訓練等をご利用者と一緒に行うことは出来なかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いつ災害が起こるかかわからず、入浴介助中に災害が起こる場合もある。その時の対応も検討し準備しておくことが必要。</li> <li>・地域の防災会議の参加は難しいと思うが、避難訓練の見学などではできないのではないか。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①地震や火災だけでなく、日々の様々な場面（火災、地震の動きの確認や備蓄品、物品の確認など）を想定した机上訓練を実施。</li> <li>②事業所の防災訓練を見学いただく。</li> </ol>